

1000人が唱和

さいたま市

声あげ未来守ろう

7/19 54

戦争法案に反対する第2回「戦争を許さない女性のレッドアクション」が18日、さいたま市の埼玉県庁周辺で取り組まれました。第1回(4月28日)の700人を上回る1000人以上が集まり、JR浦和駅前で、参加者は「衆院で可決

まで「戦争法案、廃案、廃されませんが私たちは決してあきらめません。みんなの力で廃案に」と訴えまじい「唱和しながらパレードしました。」

パレードに先立つ集会和集会に初めて参加したという夫妻もマイクを握りました。

日本共産党の梅村さえこ、民主党の小宮山泰子両衆院議員があいさつし、梅村議員は「憲法を踏みこじり、民主主義を破壊する安倍自公政権は許せない。決して負けるわけにはいきません。子どもの未来を守るため、声を上げましょう」と語りました。共産党の5人の県議団も参加しました。

同県鴻巣市から子どもと参加した女性(32)は「この1年くらいもやもやしています。15日の国会前行動に初めて参加し、今日も来しました。法案は平和のためではなく戦争するためのもの。これからは、廃案にするまで行動したい」と話しました。

戦争法案廃案しかない

反対を塊に

山梨・甲府

甲府市で18日、「NO!戦争法案、YES!憲法9条」を訴える「戦争いやじゃん女若者怒りのデモ@Yamanashi」の集会、パレードが行われ、会場のJR甲府駅北口広場には青年、学生ら1500人が集まりました。参加者は、前回(昨年11月)の3倍となりました。

企画した実行委員会の兩松拓真委員長(弁護士)が「戦争NO、法案は廃案しかない」と、山梨からの若者の声をさらに広げようと呼びかけました。

山梨県弁護士会の關本喜文会長があいさつし「法案反対の世論はさらに広がっている。廃案へ力を合わせましょう」と訴えました。

「農作業中のラジオで強行採決のニュースを聞いた」という笠井美那さん

(23) 山梨県中央市には「安倍さん、バカなことしな」といけな思ってたなと思つた。もっと時間なをけて国民が考えるべき問題なのに」といひ、3人の子を連れてパレードに加わった若林美緒さん(32)

一緒に声を

東京 新宿

東京都新宿区の新宿駅南口で16日、「安全保障関連

法案に反対する若者の会」が宣伝に取り組み、戦争法案反対の署名とメッセージカードを集めました。同会は、首都圏青年ユニオンが呼びかけて結成されました。宣伝で、青年ユニオンの神部紅(じんぶ・あかり)委員長は働きながら政治のごと、社会のごとを考えるのは大変だが、「戦争法案」を、おかしと思ふ人は一緒に声をあげてほしいと呼びかけました。青年たちが次々とマイクを握り、「平和だからとで安心して働くことができない。憲法を守ろう」「自衛隊の海外派兵よりも、働く人のために税金を使ってほしい」などと訴えました。署名に応じた東京都大田区の会社員の女性(28)は「安倍さんの決めたことで、若い人が戦争で死ぬリスクを負わされるなんて許せない。戦争法案は絶対反対だ」と語りました。

「領土問題などは力づくでは解決しない」と話した大学生(19)は「人の交流こそ大事だ」と述べました。同板橋区の高松八千代さん(55)は「国会包囲行動にも参加しました。戦争法案が通ってしまったら、後の世代に申し訳ない」と署名に心じました。同会は、今後も毎週木曜日の夜に宣伝を行う予定です。



「戦争を許さない」と集まった女性たち18日、埼玉県庁前

女性も

青年も



「強行採決絶対ハライ」と声を上げる参加者18日、甲府市内